

「本校の震災復興にむけた活動記録」

宮城県白石工業高等学校

1. 活動の概要

この度の東日本大震災は甚大な被害と多くの被災者を生み出した。本校が位置する白石市は沿岸部に比べると被害が少なかったものの、本校でも校舎や駐車場で被害を受けた。また、仙南地区を中心とする本校生徒の、特に沿岸部の生徒の自宅の多くも被害を受けている。このような未曾有の大災害を受けて、本校で以下のような形で復興支援活動を行った。

①白石市市役所中央公民館における活動

バレーボール部、バスケットボール部、生徒会執行部が物資の運搬、倉庫整理、資料の仕分け、側溝の泥上げ、草むしり、清掃活動を行った。

②文化体育活動センターにおける活動

陸上部が支援物資をコンテナから下ろす作業、被災者の使用した毛布の後片付け、支援物資の仕分け作業を行った。

③宮城県石巻工業高等学校における活動

野球部が石巻工業高校の外で流木・ゴミの片付け、瓦礫の撤去を行った。

④JR常磐線浜吉田駅における活動

ラグビー部が亘理町の浜吉田駅前にて汚泥の除去作業・瓦礫の撤去を行った。

⑤亘理町における活動

写真部の生徒が、汚泥にまみれた写真の復元作業を行った。

⑥文化祭における義援活動

今年度の本校文化祭における模擬店での収益金(61,323円)を、東日本大震災被災者に対する義援金として全額寄付した。

2. 活動の成果等

左記の活動を通して、近隣地域への帰属意識を高めさせるとともに、社会性や協調性を身につけさせることができたと考えられる。

また、今回ボランティア活動に参加した生徒の一人は、「今回の地震の悲惨さを改めて感じると共に、地域の復興に向けて団結していく人々の強さを感じました。」といった感想を残している。この言葉からも、復興支援に関わる活動を通して、今回の大震災がもたらしたものを肌で感じるとともに、人と人とのつながりや温かさを実感することができたと思われる。



汚泥の除去作業を行うラグビー部の生徒たち



写真の洗浄作業を行う写真部の生徒たち